



生ごみお宝通信

第29号

22.01.15

発行：江東区生ごみお宝倶楽部

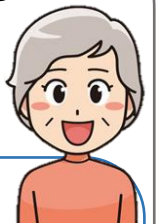
あけまして おめでとうございます



昨年のお宝倶楽部の活動は、新型コロナの影響により、中止や縮小が相次ぎました。皆様はどのような年だったでしょうか。だいぶ収まったかに見えたコロナも、年が明けてから、新たなオミクロン株の急激な感染拡大が続いています。厳しい寒さに加え、新たなコロナの脅威にも十分留意されてお過ごしください。

<区の生ごみ減量推進事業相談会>

区の生ごみ減量推進事業は、8月の講習会がコロナの感染拡大により急遽中止となったために、10月の相談会は取り組み始めての疑問などを解消するただ一度の集まりとなりました。なるべく多くの方に参加していただきと思いましたが、コロナの感染状況もまだ心配される頃でしたので、参加は50名（事業参加は121名）でした。10/26、10/27、10/30と3日間、4つの方式ごとに分かれて実施され、お宝倶楽部はアドバイザーとしてお手伝いをいたしました。相談会の様子をそれぞれの方式ごとにどうだったか、お宝倶楽部の世話人に感想を伺ってみると。



キエーロは虫の発生の問題など多少の問題はありましたが、とにかく参加の方の意識が高いな～と感じました。エコ活動しているとか、生ごみが減ったことが気持ちいいとか、私たちの頃にはなかった“生ごみを堆肥化する認知度”がずいぶん上がったように思います。

森のしくみは行程がちょっと煩雑なので、講習会もないままでの相談会は不安でした。でも多少の差異はありましたが大部分の方がテキストに沿った適切な進行状態でホッとしましたね。問題が生じてしまった一部参加者には個別の対処法をお伝えして、和気あいあいとした雰囲気ですべて終了しました。また、終了後にも個別に対応して問題解決された方もいました。

EMの参加者は少なかったですが、失敗談などの報告はなく、皆さん順調に取り組んでいるようでした。花壇活動に取り組んでいる方が3人いて、11月の花苗植替の時に堆肥を活用したいとのことでした。



段ボールは、生ごみを乾かしてしまった人がいるなどありましたが、ほとんど問題なく進めていましたよ。いやー、参加している人の生ごみを減量しようという意気込みがひとりで伝わってきましたね。

全体として言えるのは、ここ数年参加者の年齢層が若返る傾向にあることや、環境への意識が高まっていることが感じられ、嬉しく思います。お宝倶楽部は、この地道な活動が更に幅広い年齢層に支持され広まっていこう願っています。

♥相談会に参加された方のうち、次の8名の方がお宝倶楽部の会員となってくださいました。EMの島崎さん、野村さん、吉原さん、キエーロの田坂さん、藤田さん、森のしくみの青木さん、平井さん、吉岡さんです。島崎さんは南砂小で園芸ボランティアをされていて、EM堆肥を使った園芸活動をされる予定だそうです。新会員の皆様、どうぞよろしくお願いたします。分からないことなどありましたら、遠慮なく気軽にご連絡くださいね。